

GP通信

発行

大垣女子短期大学

GP専門部会



『業務に自信』と『明るい将来』

総務課 小松由佳

今、国の文教政策は、国立大学運営費交付金及び私学助成を年1%ずつ減額していくという方針になってきています。その中でこのような競争的資金を獲得できたのはとても重要な事だと思います。

また、本学もこのように積極的な情報発信をする必要であると思います。本学の取組が認められたということに自信を持って業務に取り組めることは、とても素晴らしいことだと思います。

地域に愛される大学づくりを目指す本学は、「子育て日本一」を目標とする大垣市と包括協定を締結したことや、教育GPに取り組む事ができるといことは他には真似できない素晴らしい環境にあると思います。

他大学のホームページを見てみると、教育GPに選定されたことを大きなニュースとして取り上げ、中には名刺にも教育GPについて明記している大学もあり

文部科学省におかれている中央教育審議会の報告「学士課程教育の構築に向けて(まとめ)」の概要を讀んだ中で、「学生が本気で学び、社会に通用する力を身につけるよう、きめ細かな指導と厳格な成績評価を」とありました。また、なぜ今学士課程教育の充実を目指しているのかという「学科などの組織の縦割りの壁を破り、学生本位の教育活動の展開が必要だ」

とありました。本学が選定された教育GPの取り組みは、まさしくその内容にマッチした取組なのです。

教育GPが選定されたということは、地域の方にも安心して子育てサロンを利用してもらえ、自信をもって受け入れられると思います。現段階ですでに「子育てサロン」の利用は、毎回約50組の地域の方々に利用されていることは、信頼されているかと思っています。

学生は体験学習を通じて、子どもたちやその家族の様子を観察しながらどのようにに接していけばいいのか、表現して伝えていけばいいのかを、自分で考える有意義な活動の場になっており、またその学生を見ながら教育課程の改善にもつながっていくので、これから更に視野を広げて学習体験の場を取り入れていくことも大切です。なによりもこの活動を続けていくというところこそ、本当のGood Practice (GP)ではないかと思っています。

学生にも教育GPに選定されたことをしっかり意識付け、今後、教職員と学生によるGP委員会が立ち上がると思うと思います。みなで何ができるかを考えてみたり、他の子育てサロンなどへ視察に行くことで視野が広がり、もっと充実したものができ、考えていたけれど踏み込めなかった取組が今以上にできるような気がします。



総務課 小松由佳

GP通信の必要性

本学の教職員のみならず、学生、他大学の多くの教職員から高等学校の教員、企業の方々までが本学の取組に注目しています。そこに本学の取組とその状況や成果を発信することでより本学の状況を知ってもらうことができると思います。また、短期大学教育と大垣市のさらなる活性化に繋がるのではないかと思います。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。

学務課 川合健司

大垣女子短期大学は
来年、創立40周年
を迎えます。



大垣女子短期大学創立40周年